

## 四天王寺和らぎ苑

新型コロナウイルス感染に終始し、ややもすれば笑顔が消えがちだった昨年、一昨年。この状況下こそ、“和”をもってご利用者の笑顔に向かって進んでゆきたい。この目標のために、示された四天王寺福祉事業団令和4年度事業方針を基に、和らぎ苑事業計画を7つの観点から策定する。

### ～具体的な事業活動～

#### (1) 理念の継承

我々が目指すのは、ご利用者の笑顔。ご利用者の笑顔が全ての判断基準である。四天王寺福祉事業団の一員として、全ての人の幸せを願い「人の幸せをよろこびとして」「人の尊厳と主体的な生活をまもり」「安心して暮らせる和らぎ苑づくり、地域づくり」を目指す。

#### (2) 利用者さん中心の施設

和らぎ苑は、職員、ご利用者とそのご家族が“和”で結ばれた大きな家族として、協働してご利用者を支える。そして多職種間での意見交換、情報共有につとめ、「本人さんはどう思っではんねやろ」と、常に振り返る。温かで高度な医療、介護が両輪となってご利用者を支え目指すはご利用者の笑顔、豊かな日常生活の提供である。

#### (3) 地域のための施設

昨年、医療的ケア児とそのご家族が、安心して過ごせる社会の実現に寄与することを目的に「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行された。

この目的のために「医療的ケア児支援センター」としての働きを目指したい。

#### (4) 安全で安心できる施設

安全管理は施設の生命線。昨年度は災害とも言うべきコロナ禍にあって対策、対応が求められ試された一年でもあった。本年度は、確実にやってくる東南海・南海地震も念頭に、セーフティマネージメント機能の推進と強化を図る。

#### (5) 知識技術の向上、学術集会等への参画

職員は、各人が専門職(プロフェッショナル)として、ご利用者に応えられるように知識技術の向上を目指す。

#### (6) 教育システムの確立

重症心身障害児者の現状を知り、問題点・施設の役割を各人が認識することが大切である。各部署職員が、専門職としての知識、技能、態度・情意を育成してゆく教育システムの構築が大切で、次世代を担う人財の育成に努める。

#### (7) 経済的安定

経済的基盤の確保は、わたしたちの目標を達成するための礎である。無駄な経費を削減するとともに、各人が経営感覚を持つことが大切である。地域支援や施設運営のためには最大限の投資が必要である。この地域で求められる施設であり続けるために、現状、並びに将来計画を踏まえた目標設定を行い実現する。

### ～改善活動～

(1) 重症心身障害児・者の現状と、施設の役目の共通認識。

(2) 意思決定支援への取り組み。

(3) 療養環境の改善。屋上の環境改善。

(4) 職場環境改善。くつろげる場の確保、アメニティ改善。

(5) 労働負担の改善、身体負担軽減。リフト設置。

(6) 防災、災害に向けて、マニュアル検証と実戦訓練の実施。

(7) 在宅支援事業・地域連携室機能強化、医療的ケア児支援センターに向けて。

(8) ボランティア活動の模索。外部への依頼。